

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎市中央療育センター（1日）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日 ～ 2025年 1月 24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	121	(回答者数) 78
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日 ～ 2024年 12月 27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの将来を視野に入れた専門的かつ系統的・一貫性のある支援・援助を目指します。	心と体の安定を図ります。様々な活動に興味を示せるように支援をしていきます。一人ひとりの認知の特性を理解しながら、行動への支援、様々な表現方法（表情、発声、身振り、事物や絵カードによる選択、言語等）で、人と関わりコミュニケーション力を育てていきます。大人との信頼関係を築き情緒の安定を図りながら、小集団での生活や活動参加を支援していきます。	療育支援に対して通園スタッフだけではなく、他部署（診療所・心理・言語聴覚士・看護師・栄養士・作業療法士・理学療法士）と連携し支援を行っています
2	ファミリーサポート（ご家族への多様な支援）を行なうことによって、健全な育児、養育ができる支援・援助を目指します。	家庭生活における困り感等の支援を行います。 親子通園で具体的な関わりについて相談援助をします。 必要に応じて個人面談や勉強会（制度や生活支援等）を開催します。	ソーシャルワーカーと一緒に相談支援を行っています。勉強会に関しては、各クラス課題に合わせ、適切な専門スタッフが開催しています。
3	地域における児童と関わる様々な関係機関との連携による支援・援助を目指します。	幼稚園や保育園、他事業所の利用等、地域で過ごすことを支援します。保護者のニーズに応じて電話連携や訪問支援を図り、情報共有を行います。必要に応じて各機関における関係者会議等に参加します。センター機能として通園職員に限らず、センター職員が地域の園に訪問支援や事業所間連絡会を開催する場合もあります。	個別支援計画に記載し、必要に応じて園訪問へ行き連携をとっています。他部署とも連携して訪問強化を図っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員人数が多く全体周知が難しい状況です。	センターと事業所と同時に運営しています。定員数に対して職員配置しているので、職員総数が多いです。	全体職員会議を開き情報の共有を心がけています。必要なことは、会議や社内メールでお知らせし全体周知に心がけています。
2	職員の経験年数にバラツキがあります。	職員の退職等は想定内と考えています。	経験年数が高い方と新人と一緒にクラス運営して利用者の方には一定の質のある療育を提供出来るようにしています。 年代別研修やOJTに力を入れています。
3			